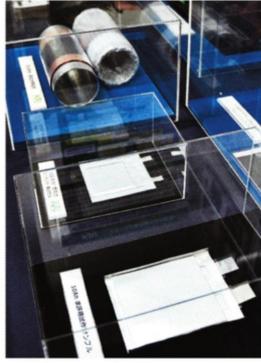


# 蓄電池 超長寿命化技術を開発

大阪ガス子会社のKRI（京都市）は26日、電気自動車（EV）などに搭載するリチウムイオン電池で現在の5倍以上の寿命を実現する「超



KRIが開発した超長寿命蓄電池の試作品。一番下が顧客企業への供給用。26日午後、京都市

## 世界初 大ガス子会社

長寿命蓄電池」の基盤技術を一などから受託。EVが普及世界で初めて開発したと発表すれば、電池の容量よりも電が性能を評価するための試作環境負荷の低減が重視されると品を供給し、最終的には容量みて、蓄電池の超長寿命化を30キロワットの電池を搭載するEV目指している。Vの延べ走行距離を、現在の16万キロから80万キロ以上に延ばすことを目指す。

### EV延べ走行距離 5倍目指す

KRIは電池や省エネシステムなどの研究開発をメーカーに任せ、極の粉末状の材料を固めるため「バインダー」と呼ばれる接着剤がイオンの流れを妨げることが原因とされる。同社はそこで材料や電極構造を見直し、既存のバインダーを使わなくて済む技術を開発して電池の機能を維持することに成功。劣化速度を遅くすることができるといふ。

6年度は社内です証を進め7年度から顧客向けに電動バイクに搭載する容量の試作品を供給。自動車や蓄電池メーカーなど国内の6社から引き合いがある。開発は材料メーカーなど10社程度の電池関連企業と連携して進め、将来は技術をメーカーに提供し実用化する。（牛島要平）